

企画展「集まれ！バッタやコオロギとその仲間たち」展示品紹介

初夏に鳴く虫 クビキリギス

エンマコオロギやスズムシといった「鳴く虫」は、秋のものと思われています。確かに、富山県とその周辺では、草むらや林縁で涼やかな鳴き声を聞かせてくれるコオロギ類やキリギリス類たちの多くは、夏の終わりから秋にかけて成虫になります。

しかし、種類数は少ないのですが、5月、6月に鳴く種類もあります。たとえば、エゾスズ、タンボコオロギ、コガタコオロギ、クビキリギスがそうです。エゾスズは北海道から九州まで分布し、富山県内の丘陵地から山地の湿地に普通にいます。タンボコオロギ、コガタコオロギ、クビキリギスの3種は本州以南沖縄まで分布し暖かいところにすんでいる種類で、富山県内ではたいへんまれな種類です（タンボコオロギとコガタコオロギは、これまで各々1回しか採集されることがありません）。クビキリギスは、平野部で数回の採集記録があり、科学博物館のある富山市城南公園で見つかったこともあります。

クビキリギスは、夏の間は幼虫で過ごし、10月頃に成虫になります。他のキリギリスの仲間が卵で過ごしている冬を、成虫の姿でススキなどの草むらの中でじっと過ごします。鳴きはじめるのは結構暖かくなってからで、初夏の少し暑く感じるような夜に「ジーー」とか「ジャーー」とかに聞こえる大きな声を響かせます。その間に交尾・産卵をし、卵は6～7月に孵化するようです。

クビキリギスはイネ科の植物や時に他の昆虫も食べる雑食性で、顎の力が強く、何かに噛みついた状態で体を強く引っ張ると頭部が抜けることがあるので、「クビキリ」と名前がついたとのこと。

お隣の石川県では結構普通にいます種類なのですが、富山県ではまれです。しかし、近年チョウ類をはじめいろいろな生き物が分布を北に広げていますので、クビキリギスも、富山でもだんだんと増えてくるかもしれません。5月、6月の夜には、草むらで鳴き声がしないか耳をすませてみましょう。

(2011年3月 根来 尚)



越冬中のクビキリギス

体長6cm前後。体の色は緑色か褐色。時にピンク色の個体もみられる。アゴの先は赤い。